

家庭教育が持つ力と 親の力

渡辺 うめ子

全家研 ポピー SKK関東支部 対話主事
(茨城県古河市)

初めてポピーと出会ったのは長男が3歳の時、それ以来ずっとお世話になっている。子供達が成人した今も、私はポピーを通じて多くの事を学ばせて頂いている。モニターさん、会員さんやお母様方と接し、意見を頂いたり、子育ての悩みに耳を傾けたりと、貴重な体験をさせて頂いている。日々の生活の中での家庭教育の確立について考えてみた。

一生分の幸せ

「オギャー」親になった瞬間耳にする声、顔を真っ赤にして命の誕生を訴える、その瞬間に親は一生分の幸せをもらおうという。そしてほとんどの親が「生まれてくれてありがとう」とわが子を見つめる…。学生の頃だったろうか、本の題名も忘れてしまったが、産声には一生分の幸せがあることを知った。私も元気な産声を聞きその声に幸せをもらったひとりである。その時ももらった幸せ、感謝、感動を忘れずに子育てしてきたつもりだが、果たして子育てはうまくできていたのだろうか。改めて考えてみると、子供たちと一緒に成長し、得たものもたくさんあったと思える。しかし、反省点も多し、である。子供とともに学ぶ親子共学の原点は、ここにあるのではないだろうか。

初めてわが子と対面した瞬間、生まれてくれてありがとうと思った瞬間から、家庭教育

の確立に向けて、一步一步確実に、一生分の幸せに支えられながら、親子共学は歩き出す。

家庭建設は土台から

新しい命が誕生し、ひとつの家族が生活を始める。家庭は社会の最小単位であり、社会生活を営む出発点である。しっかりした土台の上に築きたいものである。

ひと昔前までは、2世代3世代が同居する家庭は珍しくなかった。異世代が同居する中で、長年の経験が受け継がれ、知恵が伝えられてきた。家庭という小さな社会の中で、祖父母や父母そして子供たちは、何をすべきかを生活の中で学ぶことができた。しかし、急速な高度成長とともに、生活の都市化、情報や交通がスピード化され、家庭生活も激変した。核家族の増加である。祖父母等経験者の助言を容易に受けられない分、育児書を手に奮闘し、現在は溢れんばかりのネット情報に一喜一憂。更に子供を預け働きに出る女性も増え、まさに家庭生活の変化はめまぐるしく、その歩みを止めない。このような状況変化の中で、従来の家庭教育を維持していくことは難しいかもしれない。しかしどんな状況であっても、土台のしっかりとした家庭の担う役割は、大変大きい。大家族であっても核家族であっても各々の利点を取り入れ、基礎を固め、情報に流されたり、目標を見失ったりしない家庭を建設したいものである。

朗らかに、心豊かに

ナポレオンの言葉に「子供の運命は常にその母が作る」とある。この世に生を受けて初めて見るのは親の顔であり、初めて耳にするのは親の声である。初めて吸う乳の温かさ

母の肌の温もりであろう。親はいつでも子供の指導者である。子供は親の声を聞き、動作を見、生き方を学習していく。子育てとはすばらしい事である反面、責任は重い。でも人はその重圧に負けず、先人の知恵を参考に子育てをし、子供を社会に送り出してきた。時代の流れとともに、人間社会に入り込んできた数々の電化製品、PCや携帯電話。現代人はそれらを使いこなし、子育てにも上手く取り入れているようだが、一方ではそれらの文明機器に使われすぎてはいないだろうか。携帯の着信にはすぐ反応するが、子供の呼びかけには振り向かない。キーボード上の指は滑らかに動くのに、子供を抱きしめる事を忘れていないだろうか。親は自分の生き方に自信を持っていたい。そして豊かな心で子供に接し、社会の中でも朗らかに戦いたいものだ。人としての生き方を伝える時も、 $1 + 1 = 2$ を一緒に考える時も、心豊かに朗らかに心をかけ、声を掛けて欲しい。きっと、褒め言葉も励ましの声も、子供心にズッシリ響くはずだ。子供は一所懸命に生きている親の姿と、その声を糧に、どんな方向へも進む勇氣と、あらゆる困難に立ち向かう粘り強い精神を得る。そしてその勇氣と精神力で、多くの経験を積む事ができ、それによって力を蓄えるのである。例えば目の前に山のような宿題があったとしても、励ましの声を武器に難なくやり遂げる事ができるだろう。

人格形成

家庭教育とは？ またその目的とは何かと考えた時に、私が行き着く答えは「家庭教育五訓」の「人づくりは人生づくり」ではないかと思う。教育が持つ力は、知識を提供し立

派な人間に育て、社会の一員として歩めるよう導く事だとしたら、就学前の幼児期にほぼ作られるという人格の形成が必須である。人格とは、基本的な挨拶から始まり、感謝、尊敬、奉仕等日常生活の中で一つひとつ築いていくものである。幼児期、それはまさに母親の力が必要な時期である。そして、その力の源である健全な家庭が重要となってくる。人格形成の基盤は、やはり母親による家庭教育によって作り上げられていくものである。

全ての「お母さん」にエールを

「家庭教育の確立」のテーマを頂き、「家庭教育五訓」と照らし合わせてみた。長い間子育てのバイブルとして触れてきた「五訓」が、今更ながら基本中の基本である事に感動し、得した気分になった。「五訓」を柱に、家庭教育を単なる教科学習とせず、人格形成のための教育とし、思いつくままに書かせて頂いた。途中、自分の子育てを振り返り、納得したり反省したりした。また、子育て真っ最中のお母様方にエールを送れたらいいな、と思いつつ、「家庭教育とは何か」と何度も自分に問いかけた。そして、家庭教育の確立に不可欠な力こそ健全な家庭であり、それを築き、守っている「母」である事を再確認できた。私自身、これからも一つひとつの行動に責任を持って生きていこうと、胸に誓った。